

# 論文審査の要旨

報告番号	博 第	号	氏 名	入江 慎治
論文審査担当者		主 査	関屋 昇	
		副 査	橋本 通	
		副 査	伊藤 純治	
		副 査	嶋根 俊和	
(論文審査の要旨)				
<p>本研究は、株化ヒト鼻粘膜上皮細胞を各種濃度のケルセチン存在下で、15ng/mlのIL-4による72時間刺激を行い、培養上清中のペリオスチン量をELISA法で測定した。次に各種濃度のケルセチン存在下で、2 ng/mlのペリオスチン72時間刺激を行い、培養上清中のRANTESならびにeotaxin濃度をELISA法で測定するとともに、刺激24時間目と48時間目の細胞を対象に、NF-<math>\kappa</math>Bの活性とRANTES, eotaxinのmRNA発現に及ぼすケルセチンの効果をRT-PCRによって検討した。その結果、ペリオスチン、RANTES、eotaxin産生の抑制効果および、ペリオスチン依存性NF-<math>\kappa</math>Bの活性化とRANTES, eotaxinのmRNA発現が、4.0<math>\mu</math>M以上の濃度で生じることを明らかにした。</p> <p>本研究の結果は、適切な対象および方法を用いて行われ、ケルセチンが炎症性刺激やペリオスチン刺激による上皮細胞からのペリオスチンならびに好酸球遊走因子の産生を抑制し、アレルギー鼻炎の発症予防や治療に寄与する可能性を示している。有用な知見が得られるとともに、今後の研究への方向性が示されており、保健医療学に寄与する内容と思われる。以上の結果より、本論文が保健医療学博士の学位に相当するものと判断した。</p>				
論文題名 : 「Suppressive Activity of Quercetin on Periostin Functions <i>In Vivo</i> 」				
掲載雑誌名 : in vivo 30:17-26(2016)				